

答 オーラルフレイルの原因となる歯周病が顕在化するの、40歳以降と言われている、市では、40歳から70歳までの年齢の節目に「さわやか歯科検診」を実施している。また、要介護者への訪問検診を実施し口腔ケアの向上に努めている。この

他、信州大学・塩筑歯科医師会・塩筑医師会と協定を結び、歯周疾患と生活習慣病の研究事業等なかで口腔ケアと歯周疾患予防の必要性について啓発を行っている。

(健康づくり課)

問 歯科口腔機能の向上は健康寿命延伸の鍵であると思う。オーラルフレイル対策から健康寿命日本一という目標を掲げ目指したらと考えるがいかがか。

答 オーラルフレイル対策は健康寿命延伸のために大変重要である。松本歯科大学をはじめ、塩筑歯科医師会や塩筑医師会

等関係機関の協力を得ながら、市民の健康寿命延伸に取り組んでいく。

(健康づくり課)

◆信州F・POWERプロジェクトの発電用燃料確保について

問 発電用燃料の確保について、長野県ではC・D材(枝葉)の活用も視野に入れているが、F・POWER発電所でも利用は可能なのか。

答 F・POWER発電所のC・D材利用については、征矢野建材(株)が所有する丸太材をチップ化する「切削チップ」の他、枝葉をチップ化する「破碎チップ」を所有しており、加工したチップを燃料として使用している。

(副市長・農林課)

問 長野県の地域木質資源活用緊急対策事業で「くくい虫被害枯損木」の発電燃料への活用が示されているが、F・P・O

WER発電所での活用は可能か。

答 小さい虫被害枯損木を発電燃料とすることは可能だが、市、事業者、地元区とで交わした環境保全協定により、伐採現場でチップ化されたもののみが可能となっている。

(農林課)

要望 県の方針では、小さい虫被害枯損木について、マツノマダラカミキリの羽化しない期間は原木での移動が可能としている。原木の状態での移動ができるよう、地元区には、しっかりと丁寧な説明をして理解を得る取り組みをお願いする。



発電所へ燃料チップを搬入する大型トラック

日本共産党

質問者

小澤 彰一

小口 直実



持ち時間90分

辺野古新基地は地方自治の本旨にかかわる

◆市長の政治姿勢について

問 辺野古新基地建設は、沖縄県民の建設反対の民意に反している。地方自治体の首長として、市長はどう考えるか。

答 そこで暮らす住民の安全が脅かされていることは胸が痛む。政治判断が優先され、民意を反映した地方政治が阻害されている。大きな社会問題であり、国民が継続して議論していくべき問題である。

問 市民生活にとって、円安・物価高をどうとらえているか。

答 市民の暮らしを支える取り組みを迅速に行っ

ていきたい。輸入産業など業績を伸ばしている企業は、大幅な賃上げや国内投資によって景気回復の牽引役となっていくことを期待している。

(市長・総務人事課)

◆少子化対策について

問 3歳未満児の保育料無償化に伴い、受け皿としての保育士確保はできるのか。

答 民間事業者の参入が予定されている。保育士については、保育人材バンクを設置し、保育士の確保に努め、待遇改善も図っていく。

(こども課)

問 出産・育児によって女性のキャリアが中断することが、妊娠・出産を躊躇させているのではないか。

答 市民や企業向けに、男女共同参画に関するセミナーを開催し啓発を行っている。企業人権教育連絡協議会などで、女性